

一般社団法人 日本フルードパワー工業会

本 部：〒105-0011 東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 号 機械振興会館内
TEL. 03 (3433) 5391 FAX. 03 (3434) 3354

西日本支部：〒566-8585 大阪府摂津市西一津屋 1-1 ダイキン工業 (株) 淀川製作所
TEL. 06 (6349) 0241 FAX. 06 (6349) 9865 油機事業部内

2014 中小企業委員会・同 WG 合同委員会開催

「リーマン・ショックで得たもの、失ったもの」梶本新会長講話

毎年7月に開催される中小企業委員会では、下部組織の中小企業 WG と合同で、当会会長による講話会を開催しています。本年は7月16日(水)の午後に開催され、梶本新会長から『リーマン・ショックで得たもの、失ったもの』と題して、ご自身の貴重な経験をベースにした大変興味深いご講話を頂きました。講和に先立ち、自社の概要とご自身の略歴の紹介があり、その後本題に入りました。以下に講話の要旨を紹介します。

「社長になって2ヶ月間は、業績は順風満帆でした。ところが、9月に入るとリーマン・ショックに見舞われ、それ以降一年半、売上は急降下しました。その対応策としては、経



講和する梶本新会長

主 要 目 次

ISSN. 1345-2371

2014 中小企業委員会開催・・・・・・・・・・	1	中小企業関連事業／その他事業・・・・・・・・	5
委員会開催・活動状況		工業会ニュース・・・・・・・・・・	6
標準化事業/ISO 対策事業・・・・・・・・・・	3	今後の主要行事予定・・・・・・・・・・	6
標準化事業／規格事業・・・・・・・・・・	4	統計資料・・・・・・・・・・	9
技術調査事業・・・・・・・・・・	4		

(一社) 日本フルードパワー工業会
URL : <http://www.japan-fluid-power.or.jp/>

費を削減し、コストダウンし続けるだけですから、前向きな仕事は、何にもありませんでした。リーマン・ショックの間、私は国内の4つの工場と3つの支店を三度まわり、会社の状況と給与カットについて、社員に直接説明しました。社員は誰もが私の話を必死に聞いてくれました。私は、日本はリーマン・ショックが終わっても、リーマン・ショック前の状態には戻れないだろうと予測していました。つまり国内空洞化や少子高齢化問題等で、国内の産業構造が激変してしまうと考えていたのです。このように、社会や市場が激変する中、それに順応するためには、自分たちも大きく変わらないと会社が存続すらできなくなってしまう、という危機感がこみ上げてきました。そこで全社に向けて宣言を出しました。これが「New CKD 宣言」であり、3つのことを宣言しました。1つ目はグローバル体質、2つ目はコストダウンできる体質、3つ目は変えていける体質になれるよう、今までの体質を思い切って変えようとなりました。そして、この宣言の4か月後に、「New CKD2012」と名付けた中期経営計画も出しました。会社にとって、初めて取り組む中期経営計画でしたが、1年の短期では状況もなかなか良くならないと考え、3年先の姿を掲げ、こういう形に持っていくから頑張れと社員を鼓舞しました。その後3年が経過し結果を振り返ってみると、業績は計画通りには行きませんでした。海外をしっかりとやろうと自分でも決めていましたし、社員にも徹底してきたはずでした。しかしながら、海外が伸びていなかったのです。そこで、もう一度チャレンジするために、新中期経営計画「Global CKD 2015」を立案しました。もっと海外で頑張るぞという強い意思をこめて「Global」を掲げました。新しい中期計画1年目の昨年度は、ほんの少しですが海外売上高比率を高めることができたため、会社全体の業績が上がったとみています。

この4年間の活動の中で、わが社にとって大きな出来事は、中国工場を新しく立て替えたことです。この新工場は、運良く、稼働直後から非常に忙しくなっています。新しいスマホを作るための設備向けの機器需要や、リチウム電池製造装置や半田検査装置の需要が増えているからです。これらの動きを見ても、中国で自動化のための投資が急拡大していることがわかります。人件費が急激に上がってきたこと、高い品質が求められるようになったこと、そして、3Kを嫌がる人が多くなってきたこと等が自動化の背景にあると考えてい

ます。一方、国内の生産部門は、中期計画の中で、マザー工場化を推進することとしました。社員は、海外工場の生産が増える中、国内工場はどうか、無くなってしまうのではないかなどとみんな不安に思っていました。いや違う、「マザーというのだから親です。親らしいことをやりなさい。海外工場はまだまだ子供なのだから、しっかり面倒を見なさい。」と言ったのです。わが社の海外工場では、ものの作り方、商品の開発、生産管理の仕方等どれをとっても日本の水準にまで育っていないのです。マザー工場化を打ち出したことで、社員は親としての自覚を持ち始めてくれました。海外工場の面倒を見るとともに、自分達は親らしいことをしなくてはいけないという意識が高まったのです。そして、国内工場が生き残っていくにはどうしたらよいかを真剣に考え、自らどんどん改善し始めたのです。国内工場のマザー工場化を順次進めることで、海外の工場との連携は確実に深まりました。このようにマザー工場化は、想像以上の効果を生み出しました。

ここまでお話ししてきてお分かりのように、リーマン・ショックから得られたものは、厳しい状況だからこそ、会社を変えようとする気持ちを強く持てたことです。「New CKD 宣言」を出したことで「会社変わるなあ」と少なからず、社員にインパクトがあったようです。そして、中期経営計画を立案したことで、少しは遠くを見る目ができて来たと思っています。1年ではなかなかできなかったことが、3年かけて我慢強くできるようになってきました。いくら厳しくても、何とかなるぞという覚悟ができたことは、大きな意味がありました。

次に、リーマン・ショックで失ったこともあります。この時期には、今までピラミッド型だった組織を、文鎮型に変え、中間管理者を大幅に減らしました。これで機動的な組織になり、経費も削減できるという点では非常に良かったと思います。ところが、今となっては、マネジメント経験者不足になってしまい、急いで改善しているところです。それから、投資についても、マイナスに働きました。リーマン・ショックが解消された後も、なかなか投資案件ができなかったのです。案件が上がって来ないのでよくよく聞いてみると、現場は投資を控えていたのです。頭ではわかっているが、リーマン・ショックが身に染みついてしまい、体が冷え切ってしまったのです。総括しますと、リーマン・ショックは大変厳しい状況でしたが、得たものも多かった気がします。反対に、この裏返しもあることを、考えておかなければいけないと思います。これから、経済の状

況が良くなってくると、得られるものよりも、失うものが多くなってくることです。厳しい時には、必死なので、得られるものもある。逆に、経済が上向いている時こそ、油断せずに、失うものを少なくし、しっかりマネージしていく必要があると考えています。

リーマン・ショックが教えてくれた経営者にとって、一番大切なことは「会社を継続させること。」 駅伝のように、次の人に確実に襷を渡せるよう、頑張りたいと思っています。

本日は、私の講和を長時間、お聞きいただきありがとうございました。」

なお、当会機関誌「フルードパワー」の 11 月号に講話の全文を掲載します。

委員会開催・活動状況報告 (詳細については後段で報告します)

~~~~~  
標準化事業／ISO 対策事業  
~~~~~

油空圧シール分科会

日 時 7月4日(金) 13:30 ~ 16:50

場 所 機械振興会館 6-61 会議室

出席者 川口主査以下 14 名

事務局 千葉

議 事

川口主査の議事進行により前回議事録及び配付資料確認を行った。まず、ISO 関連の審議として、投票に掛かっている FDIS 10766 を審議し、コメント付きで承認とすることにした。続いて、ISO/TC131/SC7 ナッシュビル国際会議報告として、SC7/WG3 については中尾委員、SC7 については小畑議長から報告があり、今後の対応について議論した。

次に、工業会規格 JFPS 1017 「シールの用語」の見直し案についての審議を行った。続いて、ISO 2230 に基づく工業会規格「ゴム製シール保管に対する指針」案について審議した。

最後に、主査より平成 26 年度技術・標準化合同委員会について報告があった。

次回開催：10月3日(金) 機振会館 6-61 会議室

空気圧調質機器分科会

日 時 7月22日(火) 13:30 ~ 16:30

場 所 機械振興会館 1-5 会議室

出席者 小田主査以下 6 名

事務局 千葉

議 事

前回議事録確認後、主査より平成 26 年度技術・標準化合同委員会について報告があった。続いて、空気圧消音器の ISO 化に関連し、3 社における消音器の試験結果の考察を行い、データのまとめ方、今後の進め方について議論した。また、フランスに対抗する日本の立ち位置について、試験回路にオリフィスを挿入する、騒音レベル、消音効果の両方を把握するようにするなど関心事項を明確にした。

次回開催：8月22日(金) 機振会館 1-5 会議室

投票に付されている ISO 規格案

(TC131)

ISO/FDIS 19973-5 Pneumatic fluid power -- Assessment of component reliability by testing -- Part 5: Non-return valves, shuttle valves, dual pressure valves (AND function), one-way adjustable flow control valves, quick-exhaust valves

発行された ISO 規格

(TC131)

ISO 7241:2014 Hydraulic fluid power -- Dimensions and requirements of quick-action couplings

~~~~~  
標準化事業／規格事業  
~~~~~

油圧バルブ分科会

日 時 7月8日(火) 13:30 ~ 16:00

場 所 機械振興会館 1-3 会議室

出席者 浦井主査以下 8 名

事務局 千葉

議 事

前回議事録確認後、平成 26 年度技術・標準化合同委員会の報告が、主査より行われた。

続いて平成 26 年度 12 月応募予定の JIS B 8659-2 3 方向流量制御弁の試験方法について改訂翻訳作業に入った。第 1 部と同様の記述が多いので、できるだけ整合を取るよう進めることにした。

次回開催：10月1日(水) 機振会館 1-3 会議室

フィルタ作動油分科会

日 時 7月10日(木) 13:30 ~ 16:40

場 所 機械振興会館 1-5 会議室

出席者 一楽主査以下 6 名

事務局 千葉

議 事

平成 25 年度区分 C、12 月スタートの JIS B 9932 改正原案について継続審議した。附属書 G の G.2 まで終了した。

次回開催：8 月 5 日（火）機振会館 1-5 会議室

空気圧コンタミ分科会

日 時 7 月 18 日（金）13：30 ～ 16：30

場 所 機械振興会館 1-5 会議室

出席者 三浦主査以下 6 名

事務局 千葉

議 事

前回議事録確認後、工業会規格 JFPS 2005:2000 の見直し改訂案の本文及び解説について最終的な審議を行った。

今後の検討テーマに関連し、TC131/SC5/WG5 ナッシュビル会議において行われた ISO 12500 シリーズについてのプレゼンテーションを紹介した。
次回開催：9 月 24 日（水）機振会館 1-5 会議室

空気圧システム分科会

日 時 7 月 25 日（金）13：30 ～ 16：30

場 所 機械振興会館 1-5 会議室

出席者 張主査以下 5 名

事務局 千葉

議 事

前回議事録確認後、主査より平成 26 年度技術・標準化委員会について報告があった。

続いて、改訂版リスク低減に関するガイドブック（JIS B 8370:2013 準拠）案について継続審議した。

次回開催：9 月 22 日（月）機振会館 1-5 会議室

~~~~~

## 技術調査事業

~~~~~

技術委員会 油圧・空気圧合同部会

「フルードパワーの世界」追補版検討委員会

日 時 7 月 15 日（火）15：00 ～ 17：00

場 所 機械振興会館 1-3 会議室

出席者 饗庭部会長・山下部会長以下 7 名

事務局 大橋、千葉

議 事

まず表紙案の選定及び挿入写真の決定を行った。次に、初校の校正を「まえがき」から「油圧の世界」、「空気圧の世界」についてそれぞれ検討した。

技術委員会水圧部会

日 時 7 月 23 日（水）14：00 ～ 17：00

場 所 機械振興会館 6-60 会議室

出席者 宮川部会長以下 11 名

事務局 大橋

議 事

前回に引き続き、IFPEX2014 への出展社準備会議を兼ね、以下の議事を行った。

① 会場配置、配布資料、出展物など

フジサンケイビジネスアイ社より最新の会場配置図及び展示パネルデザイン案が配られ、パネルデザインを決定した。また、全配布資料の表紙を再確認し、サプライヤーリスト（和・英）、A5 版パンフレット（和・英）、名刺の制作部数を決定した。各社から展示パネルの説明を受け、表記様式、内容を確認した。修正・追加などがあれば 8 月 8 日までに事務局に提出することとし、次回部会で各社のプレゼンを行うこととした。製品名札の内容を確認し制作の手順を決めた。

② 会場での調査について

バーコードへの入力項目も含め、会場での調査項目、内容を確認した。

③ 出展 PR 及び予告

ブログの出展予告・掲載日程の修正案が提示され、H.P. グループと事務局とで掲載作業を行うこととした。

④ その他

水圧コーナーのビデオ制作は、各社で要否及び費用負担を再検討して決定することとした。

次回開催：8 月 27 日（水）機振会館 6-63 会議室

技術講演会開催

日 時 7 月 24 日（木）15：00 ～ 18：30

場 所 機械振興会館 B2-1 会議室

出席者 中谷講師他 64 名

事務局 鎌原、大橋、千葉

議 事

講師に（株）クボタの油機・制御部 部長の中谷安信氏をお迎えし「農業機械における最新技術動向とフルードパワー」のテーマでご講演いただきました。

ご講演の前のイントロダクションとして、日本農業機械工業会専務理事の田村敏彦氏による「農業機械の市場動向」として日本の農家の実情、日本の農業機械、日本メーカーの出荷実績、主要 3 機種の出荷実績などについて、統計資料を交えてプレゼンテーションをしていただきました。

中谷氏のご講演では、農業機械における最新技術動向として、日本農業の課題、最新技術の事例紹介、将来の農業機械とフルードパワーへの期待

として、動画を交えて興味ある事例を紹介していただきました。

講演終了後の質疑応答では、センサに関連しての要望事項や、フルードパワーへの期待のタイムスパンなどの質問があり、活発な応答がなされました。参加者は、会員企業 26 社から 63 名の方が、また、横浜国立大学の眞田教授、当会事務局からも参加しました。

講演会終了後、場所を変えての名刺交換会には約 30 名の方が参加し、講師を交えて交流を深めていました。講演資料は、HP で読めます。



技術講演会会場

技術委員会空気圧部会第 501 回特許分科会

日 時 7 月 25 日 (金) 13 : 00 ~ 17 : 00

場 所 機械振興会館 6-61 会議室

出席者 甲山幹事以下 6 名

事務局 吉田

議 事

はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。公報の検討と無効理由調査について、1 件については見解書の作成を依頼することとした。継続審議中の 4 件については、引き続き審議・調査を行うこととした。新規案件については次回より審議を開始することとした。

次回開催 : 8 月 29 日 (金) 名古屋国際センター

~~~~~

中小企業関連事業/その他事業

~~~~~

第 2 回中小企業委員会 WG 会議

日 時 7 月 16 日 (水) 14 : 00 ~ 15 : 00

場 所 機械振興会館 5S-1 会議室

出席者 松岡・廣井幹事以下 12 名

事務局 大橋

議 事

前回 WG での審議とその後のアンケート結果に基づいて、本年度の研修訪問先を検討した。その結果、九州地区の鉄鋼・造船関連事業所、地熱発電所などの中から絞り込むこととした。開催日程は 10 月 17~18 日を前提として、今後、松岡・廣井幹事、松井委員、事務局とで詳細を詰める。

第 2 回中小企業委員会・WG 合同会議

日 時 7 月 16 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 00

場 所 機械振興会館 5S-1 会議室

出席者 十万委員長以下 23 名

事務局 藤原、大橋

議 事

1. 出席各社の現況報告

出席各社の直近の売り上げは、数値的には前年までの低迷の影響もあるが、各社とも前年比 10% 増と回復基調にある。好調な分野は、前回報告の内容の延長上にあるが、造船、建機 (ミニ、トラッククレーン)、工作機械 (小形汎用、超精密)、農機、タイヤ加硫機等である。

海外では、中国、香港、台湾の受注が不調、一方で中国・華南地区は活況との報告もあった。韓国は為替の影響で受注が国内に戻っている。

下期にかけては、公共事業、工場建替え、ビル制震等の工事関係に期待できる。

2. 事務局からの報告

景況報告として、5 月度の景気動向指数、機械受注統計等を説明した。需要分野では、中国の建設機械が 4 か月連続でマイナスであり、反腐敗運動、回収車問題などがある。国内では工作機械、半導体デバイスなどが絶好調である。

WG の活動報告として、秋の研修訪問先の検討状況を簡単に紹介した。

生命・傷害保険共済制度の更新募集を 7 月末から 8 月にかけて行う旨、案内した。特に本年は加入者拡大を狙いとして、新たに約 10 社に新規募集案内を送るので加入の検討をお願いした。

3. 梶本会長講話 …… (1~3 頁参照)

~~~~~

工業会ニュース

~~~~~

☆金澤 信産業機械課課長補佐の異動

7 月 1 日付で産業機械課の当会担当の金澤 信課長補佐が同局の自動車課自動車リサイクル室長にご栄転されました。後任は、同課内の服部嘉博機械システム専門官が昇格・就任されました。

7 月 1 日付け

金澤 信前産業機械課課長補佐殿

→自動車課自動車リサイクル室長
服部嘉博産業機械課課長補佐殿
←産業機械課機械システム専門官

☆経済産業省製造産業局産業機械課長の異動
須藤 治前産業機械課長は、7月4日付で内閣府政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（産業・雇用担当）にご栄転されました。後任は、商務情報政策局情報経済課の佐脇紀代志課長が同日付で就任されました。

7月4日付け
須藤 治前産業機械課長殿
→内閣府政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（産業・雇用担当）
佐脇紀代志産業機械課長殿
←商務情報政策局前情報経済課長

☆経済産業省製造産業局長の異動
宮川 正前製造産業局長は、7月4日付で退官し、同日付で黒田篤郎内閣官房内閣審議官が就任されました。

7月4日付け
宮川 正前製造産業局長殿
→退官
黒田篤郎製造産業局長殿
←内閣官房内閣審議官

~~~~~  
今後の主要行事予定  
~~~~~

*平成 26 年
☆9月17日（水）～9月19日（金）
第24回 IFPEX 2014 開催
（場 所）東京ビックサイト
☆9月17日（水）第20回政策委員会
（場 所）未定
☆10月8日（水）第3回中小企業委員会
（場 所）機振会館
☆10月16日（木）西日本支部総会
第72回理事会・臨時総会
（場 所）ホテル・アゴーラリージェンシー堺
☆10月17日（金）西日本支部懇親ゴルフ会
（場 所）天野山カントリークラブ
☆10月30日（木）～11月4日（火）
第27回 JIMTOF 2014 開催
（場 所）東京ビックサイト
☆12月16日（火）
第21回政策委員会

（場 所）当会会議室

*平成 27 年
☆1月16日（金）年始会及び第73回理事会
（場 所）東京プリンスホテル
☆2月18日（水）第4回中小企業委員会
（場 所）機振会館
☆4月17日（金）第74回理事会
（場 所）東京プリンスホテル
☆5月14日（木）平成27年度定時総会
（場 所）東京プリンスホテル
☆5月14日（木）総会後の懇親会
（場 所）東京プリンスホテル
☆5月15日（金）懇親ゴルフ会
（場 所）程ヶ谷カントリー倶楽部
9:12 OUT・IN各3組

~~~~~  
7月に開催された当会各委員会に出席された皆様は以下の通りです。（敬称略）  
~~~~~

（標準化事業／ISO対策事業）
油空圧シール分科会
開催日 7月4日（金）
出席者
主 査 川口 葵（阪上製作所）
委 員 小畑博美（JFPA）
" 南 暢（日本バルカー工業）
" 中尾雅司（NOK）
" 方波見栄次（荒井製作所）
" 保科俊明（SMC）
" 深町哲也（CKD）
" 太田正貴（阪上製作所）
" 細川 敦（三菱電線工業）
" 相場宣慶（東京計器）
" 北村 剛（油研工業）
" 茨木満雄（ニューエラー）
" 堀田秀和（TAIYO）
" 斎藤俊一（日東工器）

空気圧調質機器分科会
開催日 7月22日（火）
出席者
主 査 小田敏裕（甲南電機）
委 員 郡司 浩（コガネイ）
" 三村 岳（SMC）
" 田中尚志（CKD）
" 高橋隆道（甲南電機）
" 妹尾 満（SMC）

(標準化事業/規格事業)

油圧バルブ分科会

開催日 7月8日(火)

出席者

主査 浦井隆宏(ボッシュ・レックスロス)
委員 松田幹人(川崎重工業)
〃 高野一治(油研工業)
〃 加藤靖丈(豊興工業)
〃 安永和敏(東京計器)
〃 野田隆明(ダイキン工業)
〃 森田浩司(廣瀬バルブ工業)
〃 中野 潤(ナブテスコ)

フィルタ・作動油分科会

開催日 7月10日(木)

出席者

主査 一楽義彦(大生工業)
委員 難波竹己(日本ポール)
〃 水上 敬(リオン)
〃 大塚宏行(油研工業)
〃 斎藤 巖(東京計器)
〃 富澤愛喜(ボッシュ・レックスロス)

空気圧コンタミ分科会

開催日 7月18日(金)

出席者

主査 三浦孝夫(アトラスコプコ)
委員 大嶽康行(CKD)
〃 榊田充隆(コガネイ)
〃 高橋隆道(甲南電機)
〃 永井祐文(オリオン機械)
〃 鈴木敏弘(SMC)

空気圧システム分科会

開催日 7月25日(金)

出席者

主査 張 護平(SMC)
委員 増尾秀三(CKD)
〃 上間丈司(クロダニューマティクス)
〃 田中和彦(TAIYO)
〃 加藤猛美(コガネイ)

(技術調査事業)

技術委員会 油圧・空気圧合同部会

「フルードパワーの世界」追補版検討委員会

開催日 7月15日(火)

出席者

部会長 饗庭健一(東京計器)
部会長 山下良介(SMC)
委員 渋谷文昭(東京計器)

〃 安木秀己(油研工業)

〃 増尾秀三(CKD)

〃 小田敏裕(甲南電機)

〃 高崎邦彦(TAIYO)

技術委員会水圧部会

開催日 7月23日(水)

出席者

部会長 宮川新平(KYB)
委員 大林義博(KYB)
〃 井口 務(廣瀬バルブ工業)
〃 村田秀紀(阪上製作所)
〃 志岐英伸(大電)
〃 細井耕平(堀内機械)
〃 村上康裕(村上製作所)
〃 内田 晃(日本アキュムレータ)
〃 宇根利典(宇根鉄工所)
〃 荒井一則(フジサンケ化ビネアイ)
〃 上片平亮(フジサンケ化ビネアイ)

技術委員会空気圧部会第501回特許分科会

開催日 7月25日(金)

出席者

幹事 甲山登紀夫(CKD)
委員 井野雅康(SMC)
〃 出澤 大(クロダニューマティクス)
〃 赤松直人(甲南電機)
〃 佐藤 浩(コガネイ)
〃 堀田秀和(TAIYO)

(中小企業関連事業/その他事業)

第2回中小企業委員会・WG合同委員会

開催日 7月16日(水)

出席者

委員長 十万幹雄(神威産業)
副委員長 松井正彦(マツイ)
委員 桐生邦彦(オックスジャッキ)
〃 花岡隆司(神威産業)
〃 松田庄三郎(光陽精機)
〃 高野和治(光陽精機)
〃 向 泰男(大生工業)
〃 廣井正夫(大生工業)
〃 澤田敬之(タイヨーインタナショナル)
〃 松岡 勉(タカコ)
〃 野村伯英(南武)
〃 杉村登夢(日本アキュムレータ)
〃 風間英朗(日本アキュムレータ)
〃 紅林幸久(日本オイルポンプ)
〃 田中裕之(日本オイルポンプ)
〃 小野慎一(廣瀬バルブ工業)

- // 杉崎秀之（廣瀬バルブ工業）
- // 福田賢二（堀内機械）
- // 増田堅太郎（増田製作所）
- // 松井源太郎（マツイ）
- // 木下純夫（三尾製作所）
- // 保坂淳一（理研精機）
- // 國峯彰太（経済産業省）

- ISO（委）空気圧調質器分科会
- 23日（水）
- 技術（委）水圧部会
- 24日（木）
- 技術（委）技術講演会
- 25日（金）
- 技術（委）空気圧部会第501回特許分科会
- 標準化（委）空気圧システム分科会

~~~~~

#### 月間行事概要

~~~~~

<7月>

- 4日（金）
 - ISO（委）油空圧シール分科会
- 8日（火）
 - 標準化（委）油圧バルブ分科会
- 10日（木）
 - 標準化（委）フィルタ作動油分科会
- 15日（水）
 - 技術（委）フルードパワーの世界
- 16日（水）
 - 中小企業（委）会長講話会
 - 中小企業（委）WG
 - 技術（委）技術流失対策（委）
- 18日（金）
 - 標準化（委）コンタミ分科会
- 22日（火）

☆経済産業省ホームページ

経済産業省のHPでは①政策②申請・届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。

<http://www.meti.go.jp/>

☆中小企業庁ホームページ

中小企業庁HPでも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。

<http://www.chusho.meti.go.jp/>
